

授業科目(ナンバリング)	介護概論ⅡB(介) (DA218)			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と制度を養う学習とする。また、介護サービスについても理解を深め、介護における安全や介護の専門性とチームケアのあり方を理解し、安心できる介護や生活の実現を目指すための学習を行う。生活する人として、利用者の生活観や生活習慣など、利用者の個別性を大切にし、尊厳の保持や自立支援の介護について理解を深めることがねらいである。</p> <p>また、本科目を学んでいく中で、生活課題を抱える全ての人の人権と自己決定、及び地域社会における福祉の問題について考えていけるようになることも併せてねらいとしたい。</p>							④⑤⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<p>介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養うことができる。</p> <p>自立に向けた介護が理解でき、高齢者の生活の実際を具体的に考え生活支援で活用することができる。</p>				定期試験 課題レポート	40% 5%	
情報収集、分析力	介護を実施する対象、場によらず様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。				定期試験 単元別小テスト	20% 5%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	介護実践における協働する多職種のチームアプローチなどの役割と機能について理解することができる。				グループワーク 単元別小テスト	5% 5%	
多様性理解力	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 介護従事者の安全性を理解し、感染予防等の健康管理を実践できる。				グループワーク 単元別小テスト 課題レポート	10% 5% 5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（60％）では、筆記試験（持ち込み不可）を行う。 ・単元別小テスト（15％）は、5回目・8回目・12回目に実施する。 ・課題レポート（10％）は、授業内での代表的なテーマをレポート化し、提出後フィードバックにて学生と共有する。 ・グループワーク（15％）は自分の意見をまとめ、グループの中で表出しているかどうかで評価を行う。 							
授業の概要							
<p>「介護概論ⅠAB」を踏まえ、人や生活の多様性について理解を深め、事例を用いたグループワークによる議論を行うことで高齢者や障害のある人の理解、その生活について学びを深める。グループワークの結果は、プレゼンテーションを行うことで、自身の考えを他者に伝える能力を身に付けられる内容とする。また、介護サービスの概要については、介護保険制度を中心に学んでいく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『国民の福祉と介護の動向』 厚生統計協会 参考書：最新 介護福祉士養成講座 『介護の基本Ⅰ・Ⅱ』 中央法規出版 指定図書：『国民の福祉と介護の動向』 厚生統計協会</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本授業は、要介護者について学ぶものであるが、まず介護を必要としていなかった頃の利用者の状況や状態を考える必要があることを念頭に置いてほしい。そして、在宅で行う介護と施設で行う介護の違いや共通視点について常に考える必要がある。利用者への適切なサービスを提供するためには、多くの知識を得ることが大切である。高齢者や障害のある人をめぐる諸問題についての学習として、図書館等を利用し、新聞や雑誌を読むよう心がけることを期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	介護サービス①	居宅や施設などで介護サービスは提供されているが、それら介護サービス提供の場の特性について学び、在宅と施設の事例から、サービスの実際を検討する。	予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。 復習：教科書を再読する
2	介護サービス②	介護保険におけるサービスの種類を再確認し、フォーマルサービス、インフォーマルサービスの特徴を学び、インフォーマルサービスの活用について考えていく。	予習・復習：教科書や配布プリントを再読し、サービスの活用を理解する。
3	介護サービス③	介護保険のサービス報酬とその算定基準等、介護保険制度について学ぶ。	予習・復習：介護保険制度について整理する。
4	介護サービス④	介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割やサービス担当者会議等について学ぶ。	予習・復習：ケアマネジャーの業務内容を整理する。
5	<u>協働する多職種の役割と機能①</u>	30分程度の小テストを行う。多職種連携の意義と目的を学ぶ。そして、同じ福祉分野である他の福祉職種の役割や機能、連携を理解する。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習・復習：他職種連携の意義と目的について整理する。
6	<u>協働する多職種の役割と機能②</u>	保健医療職種の機能と役割を学び、医療行為についても考えを深め、保健医療職種との連携を考えていく。	予習・復習：多職種との連携を実際に考える。
7	<u>協働する多職種の役割と機能③</u>	介護とその他の関連職種の連携のあり方と、そこで介護福祉士に期待されている役割について検討する。	予習・復習：介護福祉士の役割について整理する。
8	<u>協働する多職種の役割と機能④</u>	地域の連携の意義や目的について学ぶとともに、住み慣れた地域で暮らすことが可能な地域づくりを考える。	予習・復習：地域連携の意義や目的を整理する。
9	<u>協働する多職種の役割と機能⑤</u>	介護が必要な人の在宅生活を支え、広げていく地域住民やボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割、連携について学ぶ。	予習・復習：介護が必要な人に対してのボランティアの実際について整理。
10	<u>協働する多職種の役割と機能⑥</u>	地域包括支援センターや市町村・都道府県の機能と役割、連携について学ぶ。認知症高齢者など地域全体で支えていく体制について考えていく。	予習：地域包括について 復習：地域包括の体制についてまとめておく。
11	<u>介護福祉士の倫理①</u>	30分程度の小テストを行う。日本介護福祉士会倫理綱領を再確認し、介護実践の場で求められる倫理、介護従事者の職業倫理について学ぶ。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習：倫理綱領の再確認 復習：職業倫理について整理する。
12	<u>介護福祉士の倫理②</u>	人権侵害である高齢者や児童虐待の問題は、介護とも関連が深い。虐待や身体拘束禁止について学び、利用者の人権と介護について考える。	予習：児童虐待について。 復習：虐待の傾向・年次推移についてデータ資料をもとにまとめる。
13	<u>介護福祉士の倫理③</u>	社会福祉士及び介護福祉士法から、介護福祉士の定義や義務等と再確認し、プライバシーの保護や個人情報保護について学び、介護場面やその実際に照らしながら考えていく。	予習：個人情報について 復習：個人情報の取り扱いについて整理する。
14	<u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>	安全の概念について学び、利用者の生活の安全が生活の継続性につながることを理解する。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習・復習：安全の概念について整理する。
15	感染対策	感染予防の意義と、介護における感染予防の基礎知識を学び、手洗いの大切さを理解する。	予習・復習：感染を理解し、予防を実践する。
16	定期試験		